



## 再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課  
担当課長名：高松 諭

事業名	一般国道329号 <small>にしはら</small> 西原バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局						
起終点	自： <small>おきなわけん なかぐすく そんつ は</small> 沖縄県中城村津覇 至： <small>おきなわけん にしはら ちやうお な は</small> 沖縄県西原町小那覇				延長	3.6km						
事業概要	<p>一般国道329号西原バイパスは、沖縄ブロック新広域道路交通計画において、広域交通の拠点となる都市や、空港・港湾を高規格道路等と効率的かつ効果的に連絡する「一般広域道路」として位置付けられており、沖縄本島東海岸部を南北方向に連絡する幹線道路である。</p> <p>また、南風原バイパス、与那原バイパスと一体となり幹線道路網を形成し、那覇市へのアクセス性向上を図る道路である。</p>											
R3年度事業化	R2年度都市計画決定	用地未着手	工事未着手									
全体事業費	約140億円	事業進捗率 (令和5年3月末時点)	約1%	供用済延長	0.0km							
計画交通量	33,200台/日											
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	5.8	総費用 (残事業)/(事業全体)	760/760億円		基準年 令和5年						
	(残事業)	6.0	126/132億円 事業費：104/110億円 維持管理費：21/21億円	走行時間短縮便益：669/669億円 走行経費減少便益：66/66億円 交通事故減少便益：25/25億円								
感度分析の結果	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(事業全体) 交通量変動 B/C = 4.6~7.0 (交通量±10%)</td> <td style="width: 50%;">(残事業) B/C = 4.8~7.3 (交通量±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業費変動 B/C = 5.4~6.3 (事業費±10%)</td> <td>B/C = 5.6~6.7 (事業費±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業期間変動 B/C = 5.6~5.8 (事業期間±20%)</td> <td>B/C = 5.9~6.1 (事業期間±20%)</td> </tr> </table>						(事業全体) 交通量変動 B/C = 4.6~7.0 (交通量±10%)	(残事業) B/C = 4.8~7.3 (交通量±10%)	事業費変動 B/C = 5.4~6.3 (事業費±10%)	B/C = 5.6~6.7 (事業費±10%)	事業期間変動 B/C = 5.6~5.8 (事業期間±20%)	B/C = 5.9~6.1 (事業期間±20%)
(事業全体) 交通量変動 B/C = 4.6~7.0 (交通量±10%)	(残事業) B/C = 4.8~7.3 (交通量±10%)											
事業費変動 B/C = 5.4~6.3 (事業費±10%)	B/C = 5.6~6.7 (事業費±10%)											
事業期間変動 B/C = 5.6~5.8 (事業期間±20%)	B/C = 5.9~6.1 (事業期間±20%)											
事業の効果等	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 円滑なモビリティの確保                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渋滞損失時間の削減が見込まれる。</li> </ul> </li> <li>② 安全で安心できるくらしの確保                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活道路に入り込んでいた車両の整流化が見込まれる。</li> <li>・ 小那覇交差点の通行止め発生時の救急搬送の代替迂回路を確保。</li> </ul> </li> <li>③ 物流効率化の支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重要港湾の中城湾港や那覇市までの速達性が向上し、地域産業を支援。</li> </ul> </li> <li>④ 個性ある地域の形成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 那覇市街地から東海岸地域への交通円滑化により、東海岸地域の産業振興・観光拠点開発を支援</li> </ul> </li> <li>⑤ 地球環境の保全                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CO2排出量の削減が見込まれる。</li> </ul> </li> <li>⑥ 生活環境の改善・保全                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NOx排出量の削減が見込まれる。</li> <li>・ SPM排出量の削減が見込まれる。</li> </ul> </li> </ol>											
関係する地方公共団体等の意見	<p>【沖縄県知事】</p> <p>一般国道329号西原バイパスは、沖縄ブロック新広域道路交通計画において、広域交通の拠点となる都市や、空港・港湾を高規格道路等と効率的かつ効果的に連絡する「一般広域道路」として位置付けられているとともに、2環状7放射道路の一部を形成することから極めて重要な道路と認識しております。</p> <p>本道路は、那覇都市圏の交通渋滞の緩和を図ることを目的とする道路であるとともに、東海岸地域の南北のアクセス性が強化され、周遊観光や東海岸地域の活性化が期待されることから、本道路の早期整備は急務であります。</p> <p>以上により、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意いたします。</p>											

事業評価監視委員会の意見	
・事業の継続を了承する。	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	
・西原バイパスと一体となり幹線道路網を形成する与那原バイパスのうち、与那原地区（延長2.2km）が令和4年3月に暫定開通し、与那原バイパス全線が暫定開通。	
事業の進捗状況、残事業の内容等	
・令和3年度に事業化、事業進捗率は約1%、用地進捗率は0%。（令和5年3月末時点）。	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	
・早期開通に向けて、鋭意事業進捗を図る。	
施設の構造や工法の変更等	
・今後も、技術の進展に伴う新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めながら引き続き事業を推進する。	
対応方針（原案）	事業継続
対応方針決定の理由	
以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。	
事業概要図	
位置図	
	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。